



※※2016年7月改訂（第13版、使用上の注意の改訂）
 ※2016年4月改訂

■貯法■：遮光、室温保存

■使用期限■：製造後3年（外装及びアンプルに表示の使用期限内に使用すること）

トロンボキサン合成酵素阻害剤

●処方箋医薬品^注

日本標準商品分類番号 8 7 2 1 9

承認番号	20mg	22500AMX01937000
	40mg	22500AMX01938000
	80mg	22500AMX01939000
薬価収載	2014年6月	
販売開始	20mg、80mg	2003年7月
	40mg	2004年7月

オザグレルNa 点滴静注 20mg〔IP〕

オザグレルNa 点滴静注 40mg〔IP〕

オザグレルNa 点滴静注 80mg〔IP〕

OZAGREL Na

※（日本薬局方オザグレルナトリウム注射液）

注）注意—医師等の処方箋により使用すること

■禁忌（次の患者には投与しないこと）■

1. 出血している患者：出血性脳梗塞、硬膜外出血、脳内出血又は原発性脳室内出血を合併している患者〔出血を助長する可能性がある。〕
2. 脳塞栓症の患者〔脳塞栓症の患者は出血性脳梗塞が発現しやすい。〕
3. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

■原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）■

1. 脳塞栓症のおそれのある患者：心房細動、心筋梗塞、心臓弁膜疾患、感染性心内膜炎及び瞬時完成型の神経症状を呈する患者〔脳塞栓症の患者は出血性脳梗塞が発現しやすい。〕
2. 重篤な意識障害を伴う大便秘塞の患者〔大便秘塞の患者は出血性脳梗塞が発現しやすい。〕

■組成・性状■

1. 組成

本剤は、1管（1 mL、2 mL、4 mL）中に下記成分を含む。

	オザグレルNa 点滴静注20mg 〔IP〕	オザグレルNa 点滴静注40mg 〔IP〕	オザグレルNa 点滴静注80mg 〔IP〕	
容量	1 mL	2 mL	4 mL	
有効成分	〔日局〕オザグレル ナトリウム	20mg	40mg	80mg
添加物	プロピレングリ コール	80mg	160mg	320mg
	pH調整剤（2成分）	適量	適量	適量

2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の水性注射液で、pH及び浸透圧比は次のとおりである。

pH	8.8～9.8
浸透圧比 （生理食塩液に対する比）	4.2～4.6

■効能・効果■

1. クモ膜下出血術後の脳血管攣縮およびこれに伴う脳虚血症状の改善
2. 脳血栓症（急性期）に伴う運動障害の改善

■用法・用量■

1. クモ膜下出血術後の脳血管攣縮およびこれに伴う脳虚血症状の改善

通常成人に、オザグレルナトリウムとして1日量80mgを適量の電解質液または糖液に希釈し、24時間かけて静脈内に持続投与する。投与はクモ膜下出血術後早期に開始し、2週間持続投与することが望ましい。なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. 脳血栓症（急性期）に伴う運動障害の改善

通常成人に、オザグレルナトリウムとして1回量80mgを適量の電解質液または糖液に希釈し、2時間かけて1日朝夕2回の持続静注を約2週間行う。なお、年齢、症状により適宜増減する。

■使用上の注意■

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 出血している患者：消化管出血、皮下出血等〔出血を助長する可能性がある。〕
- (2) 出血の可能性のある患者：脳出血の既往歴のある患者、重症高血圧患者、重症糖尿病患者、血小板の減少している患者等〔出血を助長する可能性がある。〕
- (3) 抗血小板剤、血栓溶解剤、抗凝血剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照。）

2. 重要な基本的注意

本剤の投与により出血性脳梗塞、硬膜外出血、脳内出血を助長する可能性があるため、救急処置のとれる準備を行い投与すること。また、臨床症状及びコンピュータ断層撮影による観察を十分に行い、出血が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗血小板剤 チクロピジン、 アスピリン等 血栓溶解剤 ウロキナーゼ、 アルテプララーゼ 等 抗凝血剤 ヘパリン、ワル ファリン、アル ガトロバン等	これらの薬剤と併用することにより出血傾向の増強をきたすおそれがある。観察を十分に行い、減量するなど用量を調節すること。	本剤は血小板凝集能を抑制するため、類似の作用を持つ薬剤を併用することにより作用を増強する可能性がある。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用 (頻度不明)

1) **出血**：出血性脳梗塞・硬膜外血腫・脳内出血、消化管出血、皮下出血、血尿等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止すること。[血小板凝集能を抑制するため]

※※2) **ショック、アナフィラキシー**：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、血圧低下、呼吸困難、喉頭浮腫、冷感等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

3) **肝機能障害、黄疸**：著しいAST(GOT)・ALT(GPT)の上昇等を伴う重症な肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

4) **血小板減少**：血小板減少があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には減量又は投与を中止すること。

5) **白血球減少、顆粒球減少**：白血球減少、顆粒球減少があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。発症時には発熱や悪寒等がみられることが多いので、これらの症状があらわれた時は本症を疑い血液検査を行うこと。

6) **腎機能障害**：重篤な腎機能障害(急性腎不全等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。なお、腎機能障害時には血小板減少を伴うことが多い。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{※1)}	発疹等、蕁麻疹、紅斑、喘息(様)発作、痒痒
循環器 ^{※2)}	上室性期外収縮、血圧下降
血液	貧血
肝臓	AST(GOT)・ALT(GPT)上昇、LDH上昇、アルカリホスファターゼ上昇、ビリルビン上昇等
腎臓	BUN上昇、クレアチニン上昇
消化器	嘔気、嘔吐、下痢、食欲不振、膨満感
その他	発熱、頭痛、胸内苦悶感、注射部の発赤・腫脹・疼痛、ほてり、悪寒・戦慄、関節炎、CRP上昇、CK(CPK)上昇

注1) 発現した場合には、投与を中止すること。

注2) 発現した場合には、減量又は投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

8. 適用上の注意

(1) **調製時**：カルシウムを含む輸液で希釈すると白濁することがあるので、カルシウムを含む輸液(リンゲル液等)を希釈に用いるときは、本剤80mgあたり300mL以上の輸液で使用する。

(2) **アンプルカット時**：本品は一点カットアンプルを使用しているため、アンプルカット時にはヤスリを用いず、アンプル頭部のマークが真上にくるように持ち、反対側へ折ること。なお、カット時に異物混入を避けるため、カット部分をエタノール綿等で清拭し、カットすることが望ましい。

※■薬効薬理■

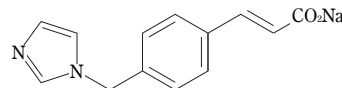
オザグレルナトリウムは、アラキドン酸カスケード中のトロンボキサンA₂(TXA₂)合成酵素を選択的に阻害してTXA₂の産生を抑制し、TXA₂による血小板凝集能を抑制すると共に、プロスタサイクリンの産生を促進して、両者のバランス異常を改善する。また、脳血管攣縮や脳血流量低下の抑制作用も認められているが、これらに関する詳細な機序は確定していない。¹⁾

■有効成分に関する理化学的知見■

一般名：Ozagrel Sodium オザグレルナトリウム

化学名：Monosodium (2E)-3-[4-(1H-imidazol-1-ylmethyl)phenyl]prop-2-enoate

構造式：



分子式：C₁₃H₁₁N₂NaO₂

分子量：250.23

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。

水に溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、エタノール(99.5)にほとんど溶けない。

■取扱い上の注意■

安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、3年間)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、オザグレルNa点滴静注20mg「IP」、オザグレルNa点滴静注40mg「IP」及びオザグレルNa点滴静注80mg「IP」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。²⁾

■包装■

オザグレルNa点滴静注20mg「IP」 1 mL×10管、1 mL×50管

オザグレルNa点滴静注40mg「IP」 2 mL×10管、2 mL×50管

オザグレルNa点滴静注80mg「IP」 4 mL×10管、4 mL×50管

■主要文献■

※1) 第十六改正日本薬局方解説書(廣川書店)：C-1021, 2011

2) 共和クリティケア社内資料：安定性試験(2008)

■文献請求先■

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

株式会社三和化学研究所 コンタクトセンター

〒461-8631 名古屋市東区東外堀町35番地

TEL 0120-19-8130 FAX (052) 950-1305